場所・面積　岐阜県恵那市、29.7ha

管理目的

リコーえなの森の活動目的
・貴重な生き物を守る生物多様性保全活動（下刈り、整理伐、モニタリング）
・地域の子どもたちや社員の環境保全啓発としての教育（生き物観察会）
・地域コミュニティー発展につながる協働活動（ウォーキング、星空観察会など）



サイト概要

岐阜県恵那市の中山間地域に位置する社有林であり、コナラやクヌギを中心とする広葉樹が約8割、ヒノキ、アカマツなどの針葉樹が約2割から成る二次林。森林の中で田んぼが湿地になったことにより、湿性の動植物が繁殖、希少種（ミミカキクサ、イワショウブ）を含む多様な植生となっている。地域協議会である「リコーえなの森中山道里山協議会」を結成して保全活動を実施している。

土地利用の変遷

・1963年　土地取得　　・1963年～2009年　土地利用なし　・2010年　森林保全活動開始
・2014年　リコーえなの森中山道里山協議会を結成し活動
　　協議会メンバー：リコー、リコーエレメックス、地域自治会、地域企業、地域NPO法人

サイト周辺の環境

岐阜県恵那市の中山間地域に位置する。申請サイト周辺は、コナラやクヌギを中心とする広葉樹やヒノキの人工林がから成る山野が広がり、谷地には他者が所有する田んぼが一部広がっている。ただし、近年では田んぼの多くは耕作放棄されている。

アピールポイント

2014年から地域コミュニティー発展への貢献を目指し、地域住民や地域企業や団体とともに活動保全団体（リコーえなの森中山道里山協議会）を結成し活動の輪を広げ、生態系の保全と森を活用した学びの場づくりを中心に活動している。植生調査結果に基づき３つのエリアにゾーニングし、希少種の保護のための木道などの整備、林床に明かりを入れる整理伐、学習に適したエリアの整備を実施している。教育委員会や地域の活動家と連携した「自然教室」を定期的開催し毎年500名以上が森林を利活用している。専門家による植物、鳥類、昆虫等のモニタリングの他、CO2吸収量を毎年測定しており年間約１００トンのCO2吸収量となっている。
・2017年度　いきものにぎわい企業活動コンテスト「公益社団法人日本アロマ環境協会賞」受賞
・2019年度　生物多様性アクション大賞2019入賞
・2021年度　岐阜県「環境保全・公害防止功労者等協会長表彰」受賞
・2022年度　恵那市青少年育成市民会議会長表彰

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】
里山林、水田跡、及び草地等から成るモザイク的な環境が形成されている。

【主な植生】
里山林の主な植生は、ヒノキ、コナラであり、それぞれの生息地に特徴的な種の生息が確認されている。
・鳥類35種、昆虫類77種、樹木121種、草本類210種
計443種の在来種が確認されている。

【確認された主な動植物】
・里山林：ヒノキ（学名：Chamaecyparis obtusa ）
アカマツ（学名：Pinus densiflora ）
コナラ（学名：Quercus serrata ）
・水田跡：イワショウブ（学名：Triantha japonica ）
スイラン（学名：Hololeion）
ハッチョウトンボ（Nannophya pygmaea）
・草地：　コバノミツバツツジ（学名：Rhododendron farrerae）
ヒメカンアオイ（学名：Asarum takaoi）
ギフチョウ（学名：Luehdorfia japonica）



写真番号：1　　写真の撮影年月：2023年4月
写真の説明：水田跡



写真番号：2　　写真の撮影年月：2016年4月
写真の説明：コバノミツバツツジ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

えなの森は恵那市の中心部や恵那インターチェンジからも近くアクセスしやすい場所であり、地域の子ども達、住民向けの植物観察会、星空観察会の場として、レクリエーションや環境教育に活用している。また、付近は木曽川水系の水源となっており、水源涵養機能を発揮することも目的と一つとなっている。

【主な活動】

・自然の学びの機会提供

地域の長島小学校児童やPTA、地元の活動団体「ＮＥＮＯ」などと連携し子どもを対象とした「自然教室」を定期的開催してきた。最近では恵那市教育委員会の研修や恵那農業高校の実習の場としてプログラムを開発、また名古屋商科大学大学院とのコラボレーションにより大学院生を対象としたフィールドワークにも森を活用しており、対象年齢層が広がり毎年500名以上が体験している。

・地域コミュニティ活動

森林保全の過程で整備した歩道や施設を使い、地域住民のふれあいの場と心身の健康づくりの場を提供しSDGs未来都市を目指す恵那市への貢献につなげている。
地域住民の得意分野や趣味を活かし、住民が講師となって幅広い年齢層に対して年間を通して様々なイベント開催している。活動が始まった当初は植物観察会、昆虫観察会が中心であったが、最近では森林の診断教室、森林浴講習、天体観察会、音楽演奏会などにも活動の幅が広がっている。自然に対する知識の向上だけでなく、森の中を一緒に歩くことによって地域住民同士の強いつながりや心身両面での健康増進に役立っている。



写真番号：３　　写真の撮影年月：2023年7月
写真の説明：地域の中学生を対象とした自然教室



写真番号：４　　写真の撮影年月：2023年6月
写真の説明：地域住民を対象とした植物観察会

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 リコーえなの森では生態系に配慮した「2050年に向けたグランドデザイン」を策定し、３つの活動　①森の生態系保全活動　②地域コミュニティへの貢献　③自然の学びの機会提供　を軸とした活動を展開しており、本計画に即して森林をゾーンニングして管理計画を毎年策定して活動を進めている。 ＜森林保全管理計画＞ ・里山林 年に 1 回間伐を行い、下草が繁茂する環境の維持を図っている。 ・水田跡 水生生物の生息に適した環境を維持している。 ・草地 １ヵ月に 1 回地域住民と協働での草刈りを行い、良好な草地環境の維持を図っている。 ・森林の水源涵養機能維持 年に 1 度間伐を行う。湿地機能の保持するための保全を実施（土手上げ、浚渫など） ・生息に適した環境を維持 毎月保全活動（下刈り、伐採しない）を実施	【モニタリング対象】 ・鳥類、昆虫、樹木、草本類 【モニタリング場所】 ・森林全域 【モニタリング手法】 ・地域の専門家による年間を通した調査 【実施時期及び頻度】 ・里山林・水田・草地の各生息地において、５年に 1 度程度生物調査を実施している。 ※但し、指標種であるギフチョウ、ハッチョウトンボは毎年頭数調査を実施 【 実施体制　】 ・リコーえなの森中山道里山協議会にて計画立案 ・地域の専門家の協力により実施